



中学校	社会	1～2年
高等学校	地理・歴史	1～3年

綿の実から種と繊維を分離させる作業を体験

授業アイデアの趣旨：アメリカ南部の綿花農園での奴隷労働を、「綿花作業に従事させる」ためと、口頭で説明しただけでは、実態を把握させることは難しい。

内容：実際に、綿の実から種と繊維を分離させる作業を体験することで、種と繊維の分離がいかに重労働であるかを実感できる。

アメリカ南部の綿花農園主は、イギリスが産業革命に成功したことで急増した綿花需要にこたえるためには、さらに多くの奴隷が必要であった。そこで、アフリカから奴隷を買い入れて作業に当たらせたことで、奴隷人口が急増した。これが後の、南北戦争の遠因となった。

生徒の反応：生徒は、最初は綿花を手でむしって繊維と種を分離するが、一向に能率が上がらないことに気付く。その時、どのような道具があれば、作業が効率的になるかを考えさせ、利用できそうな道具を想像させる。身近な物として、犬の毛をすく金属ブラシに気付くと良い。実際に体験させると、道具の有用性がより理解できる。

その他：犬の毛をすく金属ブラシのアイデアを用いて、1793年に米国人のホイットニーが綿繰り機を発明したことで綿花生産増大し、アメリカ南部は経済力を高め、奴隷需要も高まった。奴隷解放は、アメリカ合衆国が産業革命を達成したのち、40年以上を経過してからであった。